

問題は直ぐに起る。爲めになる教育とは何だ？——吾は斯様答へ度い。生徒が感ずる事の出来る氣高き感情を、其心の中にしつかりと動かぬ様に植ゑ付けるのが、第一着、手である。其生徒が、今に、筆を揮つて、チジアの様に畫くとか、刀を握つて、ミケル、アンゼロの様に刻むやうになれるかも知れぬ等と、揚言する事なく正直に畫け、解つて畫け、正直に、解つて、畫く可き義務があると説くのである。そして、生徒の感情を軟かに、思想を確かに、習慣を清く養い、彼を導いて、生涯、虚偽を去つて天真に付き、幻影を眞實に付き、腐敗汚濁を去つて、道美清澄に附く様にさせる事——眞に爲めになる教育は是を措きて他に無いと信ずるのである。

パレット評判記 (3)

エス、キタヤマ

水野以文氏のパレット

僕が初めて水彩畫に志した時

——それは四十年の秋頃でもあつたらうか神田の文房堂から購めた。その時は何でも八十錢？だつたやうに覺えてゐる、穢ひが！まゝ見て呉れ給へ。と放り出されたのは、可成奇麗さうな二ツ折パレットであつた。外側の隅の方には以文山人と白い、判で捺したやうな文字が書かれてゐて、中々手入の届いて居さうな様子に見受けられたが、開いて見て少なからず驚いた、それはあまり類のない穢さであつて、加之に指穴の蓋が斷れて居た。十八仕切に區劃されてゐる繪具入れの中で使つてゐさうな色は、たつた九色しかない、それはパーミリオン。ロー

ズマダー。カーマイン。コバルトグリーン。コバルト。オルトラマリン。カドミウムエローライト。カドミウムエロー。オレオリンこれだけだ。念の爲に、まだ外に使ひませんかと聞いて見たら『近頃はロースマダーとコバルトにカドミウムエロー位ひしか使つたことがない』には聊か驚かされた。其他の空いた場所は昔々使つたか正體の知られぬ色で陣取られてゐて繪具の混然として、流れ合つた具合は濫いとても言ふか、素的に○○ものだつた。エナメルの剥れて處々に大きな地金を見せて、小さな龜裂は一面に網の様で見事なものだ。『繪具も、固くクツ付いて了へば洗つても落ちやしないし、結句よい事にして洗はないが、あまり差支へないね』と平然たるには、更に一驚せざるを得なかつた。……次は誰の番？